

第1問 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

著作権の都合上、
この部分をご覧いただけません。

〔前屋毅「『一条校信仰』が壊れつつある：教育の常識に変化、東京・あきる野に誕生する小学生対象のモンテッソーリスクールにみる新しい価値感』『東洋経済オンライン』2025年10月27日〕

問一 「A」～「F」の箇所当てはまる文もしくは文章をそれぞれ次の中から選び、その番号を記せ。

- (1) そして、あきる野モンテッソーリスクールの実現へと急展開していく。あきる野モンテッソーリスクールには、安倍氏のほかに、6歳～12歳の教師資格をもち、教えた経験もある2人も教師として参加することになっている。
- (2) 来年の春に東京都あきる野市に開校する「あきる野モンテッソーリスクール」も、そうした変化の延長線上にある。
- (3) あきる野モンテッソーリスクールも、そうした流れの中で生まれようとしている。
- (4) 日本社会では、「義務教育」という考え方が根を張ってきた。
- (5) モンテッソーリ・ファームは、学校帰りの子どもたちが「習い事」としてモンテッソーリ教育を学ぶ場ではなく、学校ではない。
- (6) しかし幼児教育としては広く実践されているものの、6歳～12歳の「児童期」、つまり「小学校課程」でモンテッソーリ教育を実践している学校となると、確認できる限りでは、全国でも4校ほどしかないのが現状だ。

問二 二重傍線ア「一条校信仰」が壊れつつある」とあるが、著者がこのように考えるのはなぜか。その法的な背景と教育への考え方や意識の変化に触れつつ、八十文字以上、百文字以内で説明せよ。

問三 日本で「小学校課程」でのモンテッソーリ教育を実践する一条校が成立しにくいのはなぜか。その理由について本文から読み取り、説明せよ。

問四 二重傍線イ「従来の『常識』にとらわれない子どもや保護者が確実に現れている」とあるが、そうした人々の価値観について、本文の内容に即して適切に説明しているものを一つ選び、その記号を記せ。

- ア 義務教育の義務を果たすために、一条校に通わせることを最優先する価値観。
イ テストの点数よりも、子どもが学ぶことの楽しさを体感できることを望む価値観。
ウ 将来の就職を有利にするために、一流と呼ばれる大学への進学を重視する価値観。
エ 経済的な負担を避けるために、国や自治体の補助がある学校を志向する価値観。

問五 次の各文について、本文から読み取れるものに○、読み取れないものに×をつけよ。

- (1) 「教育機会確保法」の成立により、一条校に籍を置きながら一条校ではないフリースクールで普通教育を受けても、保護者は義務教育違反を問われない。
- (2) あきる野モンテッソーリスクールは、国際モンテッソーリ協会（AMI）から一条校としての認可を受け、自治体の補助金で運営されている。
- (3) 日本で「小学校課程（6歳～12歳）」のモンテッソーリ教育を実践している学校は少なく、あきる野の開校によって全国で五校目となる。
- (4) 6歳～12歳の児童を教えるモンテッソーリ教師の資格を取得するためのトレーニングコースは、現在、日本国内には設置されていない。
- (5) あきる野モンテッソーリスクールが募集を新一年生中心とするのは、公立校などの異なる文化に数年間馴染んだ子供に対しては、モンテッソーリ教育を効果的に行うことができないと考えているからである。

問六 傍線①～⑩の片仮名は漢字に、漢字は平仮名にそれぞれ直せ。

国語試験問題は次ページに続く

第2問

次の文章を読んで後の問いに答えよ。

著作権の都合上、
この部分をご覧いただけません。

〔井手英策 「自由競争できる社会Ⅱ公平と思う日本が陥る悲劇 競争しなくても目的を達成する手段はある！
『東洋経済オンライン』2024年6月23日朝刊〕

問一 二重傍線ア「私はここにも違和感をおぼえる」とあるが、筆者がそのようなように述べるのはなぜか。その理由を説明したものとして最も適切なものを次から選べ。

- (1) 近代オリンピックの父であるクーベルタンの理念が、現代の商業主義化したオリンピックでは失われていると感じるから。
 - (2) 平和の祭典と称しながら、実際には一人の勝者のために膨大な数の敗者を生み出すという、排他的な構造を持っているから。
 - (3) スポーツの基本動作を芸術として捉える筆者にとって、メダルの色の違いで選手の価値を判別することに耐えられないから。
 - (4) 参加することに意義があるという言葉が、競争に勝てない者への単なる慰めにすぎず、欺瞞に満ちていると感じるから。
- 問二 二重傍線イ「そんなへ誤った競争」が起きるのだ」とあるが、ここでの「誤った競争」とはどのような状態を指すか。「協力」「資源」という言葉を用いて説明せよ。

問三 本文中の空欄 X および Y に共通して入る適切な語句を、本文中から抜き出して答えよ。

問四 筆者は、なぜ「協力」の方が「競争」よりも効率的であると考えているか。その理由を七十字以上、九十字以下で説明しなさい。

問五 次の(1)から(5)の文について、文中より読み取れるものに○、読み取れないものに×をつけよ。

- (1) 筆者は、野球部での挫折を通じて、競争こそが社会の「効率性」を支える不可欠なエンジンであるという認識に至った。
- (2) 「共有地の悲劇」において資源が枯渇するのは、人々が互いに協力し合うことを拒み、個別の利益のために競い合った結果であると筆者は捉えている。
- (3) 現代社会で強者が競争を維持しようとするのは、すでに獲得した名声や富を利用することで、さらに有利な条件で勝ち続けられるからである。
- (4) 自由競争社会が真に「公平」と言えるのは、誰しもが自由に競争に参加でき、その結果を自己責任として受け入れる前提があるからである。
- (5) 教育学者オーリックが提案するバレーボールのルールは、個人の技術向上を競うプロセスそのものを否定するために考案されたものである。

問六 文章全体の論理構成や趣旨を踏まえ、筆者がこの文章を通じて最も伝えたいことは何か。適切なものを一つ選べ。

- (1) 経済成長が鈍化する二十一世紀においては、競争による非効率を排除し、近代以前のような強固な地縁的共同体を再構築すべきである。
- (2) 競争に勝ち抜くことだけが成長であるという従来の価値観を見直し、他者と連帯し補い合う「協力」という人間の本質を教育の柱に据えるべきである。
- (3) 「効率性」を重視する経済と「協力」を旨とする財政を明確に分離し、政治の力によって自由競争に伴う不平等を是正していくことが不可欠である。
- (4) スポーツや受験といった競争の場において、勝敗を超えた芸術的価値や努力の過程そのものを評価する新しい採点基準を導入すべきである。

問七 傍線①～⑩の片仮名は漢字に、漢字は平仮名にそれぞれ直せ。